

# 美しい村

平成30(2018)年8月、南向村と片桐村の合併によって  
中川村が誕生してから60年を迎えました。

心に刻まれる景観や文化の数々は、

豊かな自然とこの村に暮らしてきた多くの先人によって、

長い歳月をかけて連綿と作り、守られてきた財産そのものです。

村の来し方を振り返り、現在を知り、希望とともに未来へと歩み出す。

この記念誌が、美しい村「なかがわ」の  
新たな道しるべとなることを願います。

## 成長とともに 中川村の未来に生きる

中川村長 宮下健彦

昭和33(1958)年8月に南向村と片桐村が合併し、中川村が発足しました。

合併直後の昭和36(1961)年6月には、梅雨前線豪雨災害で18人の犠牲者を出し、四徳地区の全戸移住など悲しく苦い経験をし、昭和40年代後半の高度経済成長期には人口流出が進行しました。

そのような時代を経て、村では村営住宅や分譲宅地の造成、地域を担う子どもたちが健やかに育つ環境づくりのため、小中学校や保育園、文化センター、社会体育施設等の整備、また道

路や公園、上下水道などのインフラ整備、農業基盤整備事業やショッピングセンター・チャオの開設など、先達のご努力によりさまざまな事業が進められてきました。そして平成17(2005)年には再び市町村合併議論の後に自立の道を歩むこととなり、今日を迎えました。また、平成20(2008)年に、NPO法人「日本で最も美しい村」連合に加盟し、地域の資源を守り活かした美しい村づくりを進めています。

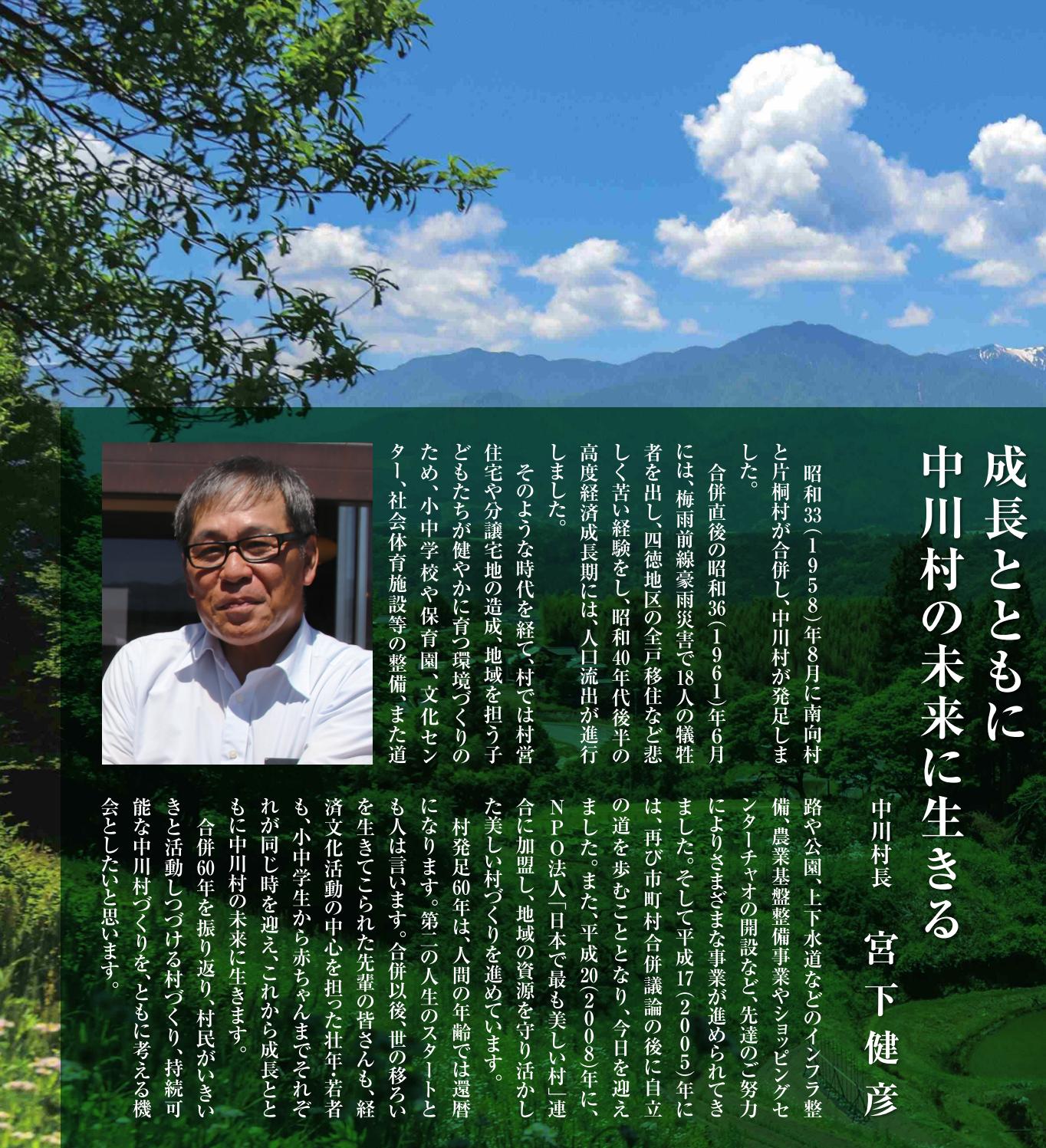
村発足60年は、人間の年齢では還暦になります。第二の人生のスタートとも人は言います。合併以後、世の移ろいを生きてこられた先輩の皆さんも、経済・文化活動の中心を担つた壮年・若者も、小中学生から赤ちゃんとまでそれが同じ時を迎える、これから成長とともに中川村の未来に生きます。

合併60年を振り返り、村民がいきいきと活動しつづける村づくり、持続可能な中川村づくりを、ともに考える機会をしたいと思います。

## 目次

- 座談会 「あの日、あのときを語る。」
- 写真で振り返る「中川村の今昔」
- 中川村発足60年のあゆみ
- 写真でつづる「美しい村「なかがわ」」
- インタビュー 美しい村の人びと
- 次の中川へ。
- 村の概要

26 24 20 18 12 10 04



## 座談会

先人たちは合併の頃に何を想い、どう生きてきたか。  
当時を知る6名が語る中川村の原点とあゆみ。

中川村発足60年の節目を迎えるにあたって、  
合併当時から現在まで村とともに歩んでこられた6名にお集まりいただき、  
“あの日・あのとき”を語っていござきました。

昭和8年下伊那郡神稲村(現豊丘村)生まれ。葛北で『片桐屋』を営む傍ら、農業にも従事。商工会女性部長も務めた。公民館福寿学級では折り紙の講師としても活躍。

**北澤** 私は戦争から帰つて昭和21年に南向の役場に入り、合併を経て35年間、定年まで働きました。合併當時は総務課で保健衛生と国保係をやつておりまして直接合併には関わっていなかつたんですが、町村合併促進法が昭和28年にでき、片桐・七久保・上片桐はひとつの中にならんかという県からの合併勧告があつたと思うんです。南向の方は、天

くかを記した『新村計画書』もあります。それを見ていくと、合併というものは当時としたら“せにやならん情勢”にあつたんだなと感じております。

## 公民館で「青年学級」を組織

林 私の場合は戦争から帰つて青年運動をやつていて、公民館を作ろうということで、昭和23年の8月15日に片桐村公民館ができて公民館主事になつて、当時は嘱託で確か昭

昔の教育というのは法律ではなくて、学校令、大学令、青年学校令という勅令があつたんですけども、戦争が終わつて学制改革で一切の教育に関する政令がなくなり、特に青年学校令は戦争に協力したということで廃止になつちゃつたんです。それで片桐村の青年学校にいた50～60人の生徒の学習の場がなくなつちゃつたということで、公民館で引き受けたということで、青年学級を組織していました。

A portrait of an elderly man with white hair and glasses, wearing a dark suit and light shirt. He is seated at a table with his hands clasped. The background is blurred.



— 細田 繁明さん(葛北)

昭和12年南向村葛北生まれ。合併時は南向有線放送協会で保守業務を担当。果樹農家として現在も34種の梨を栽培中。伊南農協を経て宮下建設工業株総務部長を務めた。

上澤 茂さん(美里)

昭和9年南向村神又(現美里)生まれ。昭和34年から当時の東公民館第一分館の分館主事。郵便局へ勤務後、民生児童委員を4期務めた。

北澤 正美さん(横前)

大正15年南向村飯沼生まれ。予科練を経て昭和21年に旧南向村役場に入庁。合併の翌年に横前に転居。中川村役場退職後は教育長を3期歴任。

林 常登さん(小平)

大正12年片桐村小平生まれ。公民館の立ち上げに関わり、主事として長年社会教育に生きる。中学校前に司法書士事務所を構え、村議を1期務めた。

吉澤 三代子さん(田島)

昭和4年南向村丸尾(現美里)生まれ。南向農協勤務ののち昭和30年に結婚し、以来片桐村田島に在住。農業を営む傍ら農協婦人部、民生児童委員3期を務めた。

片桐 友子さん(葛北)

和8年下伊那郡神福村(現豊丘村)生まれ。葛北で「片桐屋」を営む傍ら、農業にも従事。商工会女性部長も務めた。民館福寿字級では折り紙の講師として活躍。



昭和26年 片桐公民館青年学級のある日



昭和32年 南向青年団 開山式準備のための役員による下見

お願いして、定期的に主に夜学でやりました。女子は冬期の昼間に裁縫講師の指導を毎日青年学級で専任講師を置きやっていました。

陣馬形山の頂上で  
古川村青年会を結団

上澤 私は合併のとき24歳で、南向の青年団協議会の議長という立場でした。当時、南向青年団だけでも180人ぐらい。南向青年団は特殊で、陣馬形山のキャンプ場経営をやっておりました。毎年7月に開山式をして、青年団員が交代で小屋の管理・山の管理をして、そういう事業を8月のお盆過ぎまでやった

昭和33年の開山式のとき、片桐の青年団の人たちと合併記念の結団式をやろうじゃないかということで、確か7月10日に片桐の皆さんにも来ていただき、陣馬形山の頂上で結団式というかたちで「中川村青年会」になつて、翌年に「連合」をつけて中川村連合青年会になりました。

あの頃、伊南社つていう組合製糸があつて、伊南社の社員も青年団に加入して交流や学習をやつていましたが、女性もかなりの数いたんじやないかなあ。



さんが話された青年学級というのも

う勤めていたので行か  
なかつたけれど。  
あの頃は青年団の  
運動会がうんと盛ん  
で、ほうぼう注3の村の青  
年が来て注45か村の運動  
会をやりましたねえ。  
そのとき私は南向のリ  
レーの選手になつてね。  
**上澤** 望岳荘とのこ  
ろのグラウンドは  
100メートルはとれ  
なかつたね、あそこは  
…ななめにとつても90  
メートルぐらいだつたん  
ぢやないかなあ。



役場に帰ってきて今度は四徳に山伝いに自衛隊と共に行き、四徳の農協の支所で炊き出しを一週間ぐらいやっていたかなあ。当時はヘリコプターレで米なんかどんどん運んで、自衛隊が来てやつていてね。

三六災の現地での経験というの  
は、私の人生の中でも人間としてのプ  
ラスの遺産であると同時に負の遺産  
でもあり、深い印象として残っています。  
**吉澤** そのときは実家で、有線放  
送も聞こえず忙しく働いとりまし  
た。そこへ突然、北林に住む甥がリュ  
ックサックを背負い現れ、ここまで来  
るのに苦労してやつとたどり着いたこ

家の中でもびっくりし、急いで帰りました。支度をして私の娘（当時5歳）をリュックサックの上に乗せて歩いて降りてきましたら、谷田で手取沢が荒れていって、私たちではどうにも渡れない。そしたら、自衛隊の人人がいて、娘を背負い私たちにも手を貸してくれて、やつと川を渡つて中川橋まで歩いてたどり着きました。天竜川も水が

六災で就職することになった。三十六災でもつて兼業農家が多くなったのは事実だと思う。

あの頃は多収穫でお米を増産しなきやいかんという時代だったんだす。お米と養蚕それから養豚、養鶏だとか酪農をやっている人も結構多くつたし、果樹栽培も盛んになつてきました。特に、北山方の場合は

A close-up portrait of Setsuko Thurlow. She has short, dark, curly hair and is smiling warmly at the camera. Her hands are clasped together in front of her chest. She is wearing a dark, textured blazer over a light-colored collared shirt. A small, decorative pin featuring a dove is pinned to the left side of her blazer. The background is a plain, light-colored wall.



行機乗りの経験があるから第一便に乗つて滝沢の状況をつかんでこい！」ということでヘリで滝沢を見に行つたんです。爆音がしていつたら幾人かの人が手を振つて相図をしてく  
れておつてね。ああ大丈夫、滝沢も無事だつたと報告ができた。その記憶が強く残ております。

山間地ですから農閑期は山仕事を多くたね。農閑期でもかなりの林業の収入があつて生活を支えとつた、そんな気がするんです。

**片桐** うちもお店をやりながら4反5畝の田んぼを作つておりました。当時は田の草取りも手で、ゴム手袋もないで爪が減つていくほど一生懸命に草取りをしました。田んぼ作りをして、女でもトラックへ2斗、今で言うと30kgの袋を持ち上げる、そん

**手袋をはめずに我慢して**  
吉澤 うちも田んぼをやつておりましたけど、田んぼは南向で家は片廻りだもんで天竜川を渡らにやいけないそのとき舟が出てくれて『稻はざ』を作るくらい棒を、ひいお祖父さんば背負子2束づつしばって束ねてくれてねてね、それを背負つて舟に乗つてお母さん



持つて稻刈りに通いました。手刈りだつたらからまた夕方に舟で帰ってきてね。

林 5か村の青年団というのは終戦直後に上伊那全体でできて、南部5か村で青年会を作つて動いていました。当時、上伊那青年会は辰野の駅前に事務所を持つていて、外地から引き揚げて来る人たちの援護を主体の事業としてやつていましたね。

A portrait of Shigeo Kuroda, a middle-aged man with dark hair, wearing a dark suit, white shirt, and patterned tie. He is smiling and gesturing with his hands while speaking. The background is a plain, light-colored wall.

のときは雨が異常で、25日頃から全員有線に泊まつておったんな。昔の有線は交換台があつて受話器を持ち上げるヒランプが点いてそこへジャックを突っ込んで話すしくみだつたんだけれど、27日の3時頃だつたか四徳の回線のランプが一度にバサつと点いた。「これは異常だ」つていうわけでジャックを差してみたけれどもう通信じんようになつて、そのときにおそらく幹線が切れたと思うんだね。

な見ると茅葺き屋根の家が半分壊れて流されて半分だけ残つていて倒れた有線の幹線に毛布や布団が干してあつた。ちょうど蚕の上蔟の時注2期だったもんでもカゴジも干してあつたなあ。

だんだん上へ上がつていつたら、小さな小川だつたのに谷が削れて水は外に流れ、四徳の支所の売場に大きな丸太が突っ込んでそれはもう無残なものだつた。



昭和26年 第五部連合青年団陸上競技大会 400mリレーの思い出

きたと思うんです。  
今話が出たけれど辰  
野の駅前の「みのわ」つ  
ていう旅館に事務所を  
構えて上伊那の連合青  
年会で兵隊から帰還す  
る人たちの接待をやつた  
わけです。3人ぐらいず  
つ町村の割り当てで交  
代でね。

年に現在の場所へお店を出したそ  
です。

その後おじいさんは農協や有線の  
組合長をやらせていただいておりま  
したので、おばあさんと私でお店をし  
て、今は建て替えて小さいお店にな  
りましたけど、その時は大きいお店  
で綿とか機織りの糸とかお布団や  
毛布なんかも売つておりました。昔  
は中川橋を渡つて西の方からもお客  
さんが来てくださいましたね。

昭和31年に長男が生まれて、お百  
姓とお店と子育てに追われておりま  
したけれど、三・六・災のときもおじいさ  
んは組合長で本当にうちへ帰らない  
くらい忙しくやつておりました。

